



日本メルコスール 関連情報とりまとめ —アルゼンチン、ウルグアイ編—

日本貿易振興機構 (JETRO)
ブエノスアイレス事務所長
紀井寿雄

2017年11月30日

メルコスール各国における基本的な政治経済情勢

アルゼンチン

- ◆2015年のマクリ政権誕生によって、12年間継続した左派政権から中道右派政権に軌道修正。
- ◆それまでは自国の一次産品等の輸出による外貨獲得を柱に、外貨流出を防ぐための保護主義が展開。その行き詰まりの解消を目指し、新政権は外貨流入を確保するため政府の信任力の強化をはかるため、債務問題を解決。また、保護主義を終わらせ、輸出税の廃止/引き下げ、為替の自由化に取り組む。
- ◆2016年の過渡期(GDP成長率 Δ 2.3%、インフレ率41%)があったものの、2017年からは成長軌道に乗っており、今後はGDP成長率3%周辺の安定成長期に入ると見られる。

ウルグアイ

- ◆中道左派FAによる安定的な政治運営が行われ(2005年～現在)、確立した政党政治及び民主主義、政府への高い信頼、汚職の少なさ等が特徴。
- ◆ウルグアイ投資法による免税優遇措置(法人税、相続税、付加価値税、奢侈税等が一定期間免除)やフリーゾーン設置等により積極的な外資誘致を実施。
- ◆所得格差は南米で最も低く、貧困率も最低水準。中流階級が人口の6割を占める。

それぞれの政府における通商外交政策

アルゼンチン

◆マクリ政権は「賢い統合」というキーワードを用いながら全方位への通商開放政策を採用。

◆2017年上半期はメルコスール議長国として、メルコスール域内の深化、太平洋同盟との協調、同同盟加盟国との個別の通商協定強化(コロンビア、チリ、メキシコ)を進めた。

◆地域経済統合の深化がある一方、それをイデオロギー化させることなく、米国との関係強化にも努める。4月の米国訪問時には石油/ガスの投資誘致のみならず、首脳会合を通じてレモンの市場開放を勝ち取った。また、同国とはギブアンドテイクと是々非々を交えて、豚肉の亜市場開放なども行われている。

ウルグアイ

◆品目及び相手地域の両方で貿易の多角化を掲げ、域内外諸国との経済関係強化を目指している。

現在交渉が進められているメルコスール・EUの FTAの検討概要及び論点

アルゼンチン	ウルグアイ
◆アルゼンチンの関心は農産品の輸出。	◆ウルグアイの主要な関心は牛肉とコメのEU市場へのアクセス拡大。ウルグアイはメルコスールで唯一EUへのコメ輸出衛生条件をクリアしており、現在年間10万トンをEUに輸出している。 ◆ニン・ノボア外相は、同FTAの年内合意への関心を明らかにしている。

メルコスール・EUのFTAに対する各国国内での官民での受け止め方

アルゼンチン

◆現政権としては、本年12月に行われるWTO閣僚会合の席で政治的な合意を目指しているところ、特にメルコスール議長国であった本年上半期においては精力的に交渉の加速化に努めてきた。

ウルグアイ

◆与党であるFA(拡大戦線)党にもFTA一般に対し、消極的な立場をとる国会議員がいる。

メルコスールとEU以外の国・地域との間で進められている 通商交渉の状況と論点

アルゼンチン	ウルグアイ
<ul style="list-style-type: none">◆ALADI域内の通商交渉として、コロンビア、メキシコ、チリとの通商交渉を行っている。◆その中でメキシコとは実質的なFTA協議が2018年前半を目指して妥結する方向で協議継続中。◆順序としては、EU、EFTA、韓国、豪州、カナダといった順番。	<ul style="list-style-type: none">◆2016年に中国とのFTA交渉を発表したものの、メルコスール加盟国(ブラジルとアルゼンチン)の了承が得られず前進は無い。◆対チリFTA(既存のFTAの拡大)が2016年に署名されたが、与党FAの反対でウルグアイ議会の批准が滞っている状況。◆2004年署名済みの対メキシコFTAの枠組みの中で拡大協議が行われており、11月14日、ウルグアイ産粉乳の輸入解禁及び牛肉の無関税輸入枠の割当に合意したと発表された。

メルコスールとEU以外の国・地域との間で進められている 通商交渉の状況と論点

アルゼンチン

- ◆韓国及びカナダとは予備協議を終え、続いての交渉開始が見込まれている。
- ◆政府高官から日本から早く意思が示されないと他との交渉が優先される趣旨の発言や、日本との対話がなかなか進まない場合は、そのスペースを韓国に埋められてしまう旨の発言もある。

ウルグアイ

- ◆中国はウルグアイの最大の貿易相手国であり、両国はFTAへの関心を維持しているとするが、特にブラジルの了解が得られないまま交渉が開始することはないと推測される。中国は対メルコスールFTAへの関心も明らかにしている。
- ◆対チリFTAでは特許協力条約(PCT)署名が義務づけられており、ジェネリック薬品の生産を主とするウルグアイ製薬業界が反対をしていることに加え、チリ市場へのウルグアイ産品輸出拡大があまり期待できないことが批准が滞っている原因と専門家が分析している。
- ◆対メキシコFTA拡大により、乳製品及び牛肉等を中心とする食料品輸出の拡大を目指している。

日・メルコスールEPAに対する各国国内での官民の 考え方(ニーズ・要望の高まり具合など)

アルゼンチン	ウルグアイ
<p>◆政府内でも工業生産省は日メルコスールFTAに対して非常に前向き。同省高官はいつでも協議を開始することを歓迎する旨表明している。</p>	<p>◆現在、ウルグアイ産牛肉の対日輸出解禁の交渉中であり、牛肉の輸出が開始されれば、日・メルコスールEPAに対する要望は高まると予想される。</p> <p>◆ウルグアイは、2017年4月から日本の一般特惠関税制度(GSP)の対象外になったことで、特に豪州産牛肉等との我が国関税率の差がより大きくなったことを認識している。</p> <p>◆日・ウルグアイ投資協定が2017年4月に発効。</p> <p>◆上述の理由から、牛肉関連産業界の関心は高いと考える(本年、日本ハムによる現地食肉加工会社の大型買収があった)。</p>

日・メルコスールEPAの交渉において想定される論点 (日本及びメルコスール各国それぞれにとって)

アルゼンチン

◆牛肉をはじめとした農産品のアクセス改善。

ウルグアイ

◆ウルグアイ産牛肉の日本市場アクセス改善。

ジェトロ・ブエノスアイレス事務所

*Edificio Comega, Avenida Corrientes 222, Piso 9,
Buenos Aires, Argentina*

TEL:54-11-5235-0977

ARB@jetro.go.jp

【ご注意】

本日の講演内容、資料は情報提供を目的に作成したものです。

主催機関および講師は資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否はお客様のご判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても主催機関及び講師は責任を負うことができませんのでご了承ください。